

## 「1年生からの暑中見舞」

ハスというのは、まったく変わった植物です。葉と花は水面、茎は水中、地下茎は水底の土の中です。一体どういう進化をしたらこういう環境に適応できたのか、本当に不思議です。



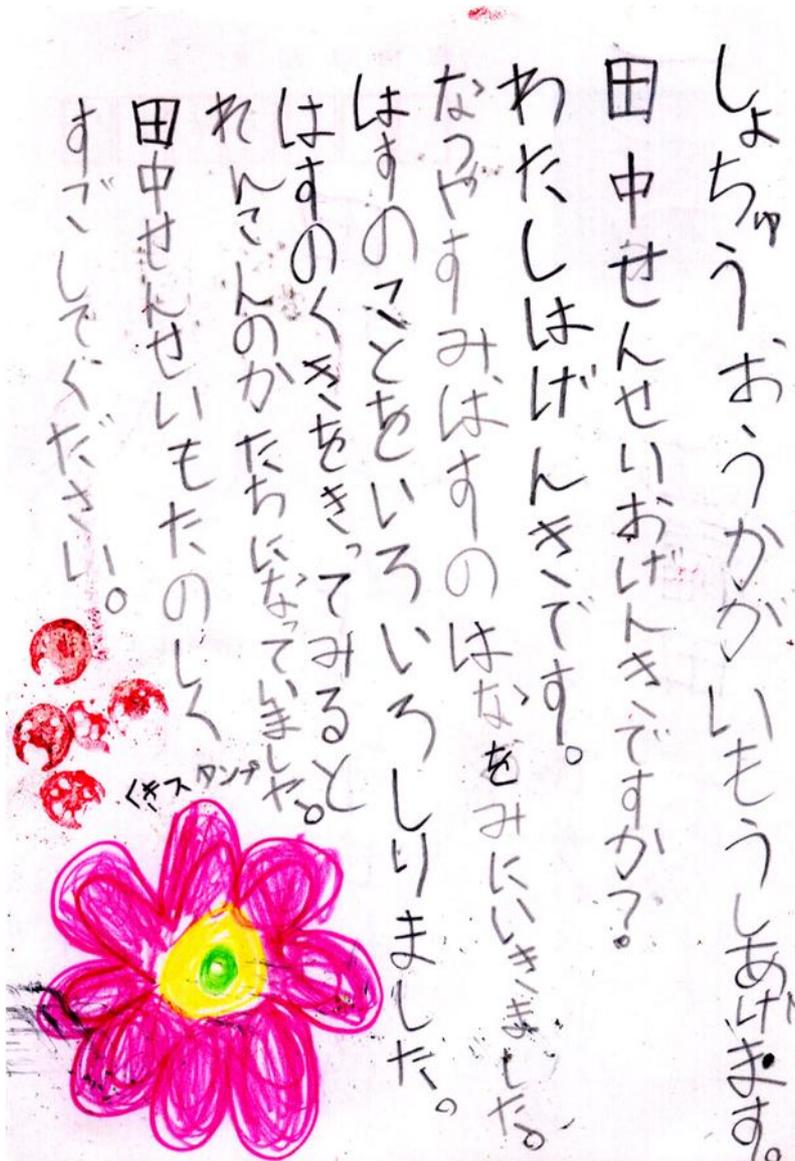
「蓮の花咲く飛鳥寺」 蓮の花咲く池は、極楽浄土をイメージしていると言われます。(水彩画)



「ハスの果実と種子」 果実と種子のつくりは非常に変わっています。中の種子は食用になります。この種子は種皮が非常に厚く、保存状態によっては 2000 年以上たっても発芽する、驚異的な遺伝子保存能力を持っています (大賀ハス、中尊寺ハス、行田ハスなど)。新潟県上越市にて



「ハスの葉」 水生植物なのに、葉は完全に水をはじきます（ロータス効果）。水滴がまるで水銀のように表面張力をフル発揮しています。表面のゴミや虫を巻き込んで、水滴が葉の中央に落ちるのです。この仕組みで、ハスの葉は非常にきれいな状態を保っています。新潟県上越市にて

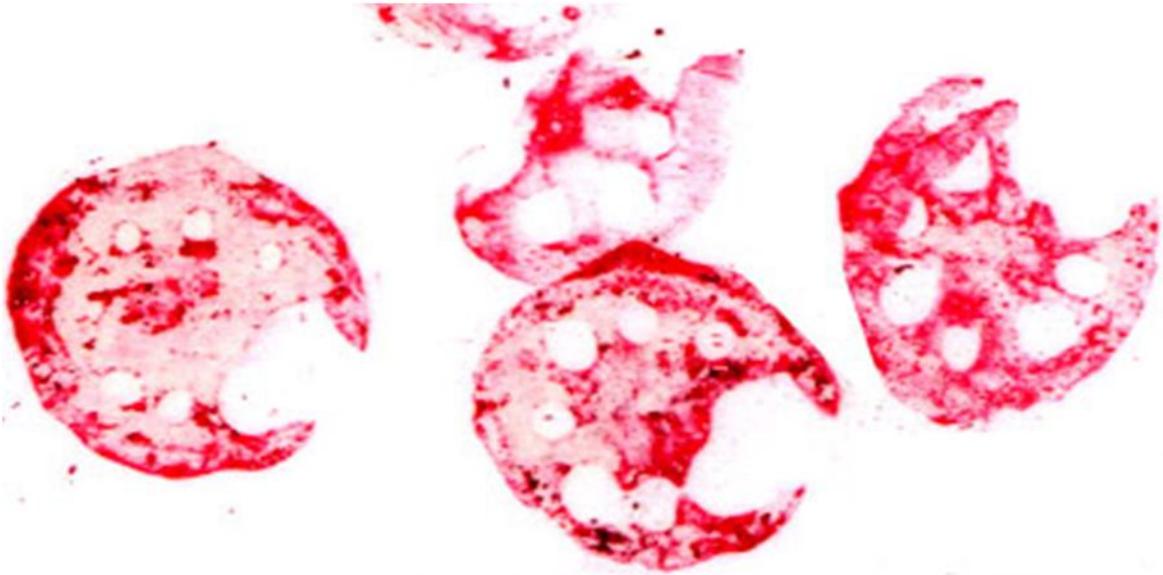


先日、一年生の女の子から暑中見舞いのはがきが届きました。私は1年生の授業は受け持っていないので、子どもたちのことはあまり知りません。しかし、私はよく白衣で校舎内外を歩いているので、きっとこの子は私を理科の先生と知っていたのでしょうか。

手紙はしっかりした字と文章で書かれていて、大変感心しました。「しよちゅうおうかがい」なんてところが、素晴らしいですね。驚いたのは、後半にあるハスの観察の記述です。

「・・・はすのくきをきってみると、れんこんのかたちになっていました。・・・」

1年生にして、素晴らしい発見ですね。「発見の証拠」に茎の形のスタンプまで押してあります。私もハスの茎がそんな構造だったとは、全く知りませんでした。



「ハスの茎で押したスタンプの拡大」 確かにレンコンの切り口とまったく同じ形です。



レンコン（蓮根）は「蓮の根」とは書きますが、根ではなく「地下茎」です。（地下茎とは別に根もあります。）地下茎が大きくふくらんだ部分を食用にしているわけです。従って、細い茎の部分もレンコンと同じ構造をしているわけですね。葉と地下茎を結ぶ茎も、やはり同じ構造です。ハスは葉の表以外は、すべて水中なので、通気の為の穴が必要なのだそうです。

暑中見舞いをくれた子は、実物の観察からそのことに気づき、理科の教師の私に伝えてくれたわけです。この子はハスに学び、私はその子から学びました。

こんな実験もできるでしょうか?? 地下茎には「節」があるから無理でしょうね??でも試してみたいです。

（お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋）